

授業科目(ナンバリング)	社会福祉法制論 (DB302)			担当教員	星野 秀治		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
社会福祉の専門職には、多様な生活課題を抱える人びとの自己決定を尊重し、支援することが求められている。そのような、福祉現場で生じるさまざまな問題に対応し、人びとの支援を適切に行っていくためには、社会福祉に関する法制度の理解が不可欠である。本科目は、そのような観点から、社会福祉の理念や基本的な枠組みを定める法律および制度について、これまで学んできたことを振り返りながら、いくつかのテーマに即して理解を深めることを目的とする。							①②③⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	社会福祉の主要な法令について、その基本的枠組みを説明できる。				小テスト 10% 定期試験 30%	40%	
情報収集、分析力	さまざまな場面やケースに対応して、必要な制度を選択し、活用することができる。				小レポート 20% 定期試験 30%	50%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	社会福祉の専門職になろうとする者として、制度理解の必要性を認識できる。				レスポンスシート	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験、レスポンスシートを総合的に勘案して評価を行う。評価比率は上記のとおりである。定期試験は、筆記試験とし、専門職に必要とされる基礎知識や概念を理解できたかを評価する。レスポンスシートについては、授業内でコメントを行うなどのフィードバックを行う。							
授業の概要							
授業は、レジュメを用いた講義形式を基本としつつ、場面やケースに対応して適切な制度選択・活用を行うことができるよう、ケースワーク等のアクティブラーニングなども取り入れる予定である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：河野正輝・阿部和光・増田雅暢・倉田聡編『社会福祉法入門（第3版）』、有斐閣、2015 参考書：河野正輝『障害法の基礎理論——新たな法理念への転換と構想』、法律文化社、2020 指定図書：参考書と同じ							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本科目で扱う社会福祉の諸制度は、すでにいろいろな専門科目で一度学んだものばかり（のはず）である。授業では、それらについて単に復習するだけでなく、学んだことを現場で実際に生じている諸問題に適応・活用できる能力を育成することを目指している。そのために、ケースワークや受講者との討議なども授業内で多く取り入れていく予定である。これまでに各専門科目で学んだことをあらかじめ復習し、問題意識をもったうえで、積極的に授業に参加してくれる学生の履修を期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 社会福祉の法体系と目的	この授業で扱う範囲、授業の進め方などについて説明する。 社会福祉の法体系と目的について確認する	社会福祉の法制度にはどのようなものがあったか確認しておく。
2	社会福祉法制の展開	社会福祉法制の歴史とその社会的背景、および現状について学ぶ。	「社会福祉原論」で学んだ社会福祉法制の歴史について復習しておく。
3	社会福祉における給付の法構造①	措置制度と契約制度の給付の構造について学ぶ。	「社会福祉原論」で学んだ措置制度と契約制度について復習しておく。
4	社会福祉における給付の法構造②	社会福祉の「契約化」に伴って生じている諸問題、特に事業者の責任について検討する。	テキストの内容の予習および復習。
5	社会福祉における行政責任	社会福祉における行政の責任のあり方について検討する。	テキストの内容の予習および復習。
6	社会福祉の財政と利用者負担	社会福祉を支える財政と負担の構造について検討する。	テキストの内容をよく復習し、利用者負担のあり方について考えておく。
7	福祉サービスの提供体制①	福祉サービスの提供体制の概要について学ぶ。	福祉サービスの提供体制について、これまで他の科目で学んだことを復習し、まとめておく。
8	福祉サービスの提供体制②	福祉サービス提供の主たる担い手である社会福祉法人について検討する。	社会福祉法人制度について、これまで他の科目で学んだことを復習し、まとめておく。
9	社会福祉における権利擁護①	人権の理念、福祉サービス利用者の権利、苦情解決などについて理解し、支援者としての基本的姿勢を学ぶ。 1回目から8回目までの内容に関する小テストを実施。	小テストに向けた復習をしておく。
10	社会福祉における権利擁護②	虐待問題（児童、障害者、高齢者、DV）に対応する法制度の内容とその課題について、事例に即して理解する。	虐待問題に関してこれまで学んだことをまとめておく。
11	家族と社会福祉法制	変化しつつある現代の家族と社会福祉法制の関係について検討する。	テキストの内容の予習および復習。
12	外国籍住民と社会福祉法制	外国籍住民と社会福祉法制の関係、およびそこから生じる諸問題について、事例に即して理解する。	テキストの内容の予習および復習。
13	犯罪と社会福祉法制	犯罪者の処遇と社会福祉法制の関わりについて、「長崎方式」なども踏まえつつ検討する。 これまでの内容に関する小レポートを実施。	レポートを作成する。
14	社会福祉法制理解の必要性について	13回目で実施した各自のレポートをもとに、社会福祉専門職における制度理解の重要性について討議を行う。	提出したレポートの内容について説明できるようにしておく。
15	社会福祉法制の今後の展望	国の社会福祉に対する新たな対策等、その動向と社会福祉の課題について検討し、社会福祉法制の今後を展望する。	定期試験に向け、学んだ内容を復習しておく。
16	定期試験		